

「めざそう値」の達成度等の点検評価

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、那覇市立図書館協議会の開催時期について調整しておりましたが、令和2年度中に実施することができず外部評価を実施することができませんでした。

「那覇市立図書館」運営の基本的な考え方の点検評価基準（別紙3）に基づき、「施策（事務事業）の進行管理チェックシート」（別紙4-(1)参照）を活用して、「めざそう（目標）値」の達成度や評価の観点ごとの点数・コメントまで内部評価した。

点検評価事務事業（2019年度分）

	課 題	施策名	事務事業名	指標名
1	I-1 障がい者サービスの充実	I-1-(1)デージー図書の充実	1. デージー図書購入・貸出の推進	デージー図書蔵書数 デージー図書貸出数
2	I-2 利用者サービスの充実	I-2-(1)資料・情報提供サービスの充実	2. 資料・情報提供サービスの推進	貸出冊数、来館者数、有効登録者数、予約件数、リクエスト件数、レファレンス件数、ホームページアクセス件数
3	I-3 青少年に対するサービスの充実	I-3-(1)中学生・高校生の読書活動の充実	3. 中学生・高校生の読書活動の推進	年齢別(13歳～18歳)の貸出冊数
4	I-4 郷土資料の充実	I-4-(1)郷土資料の充実	4. 郷土資料整備事業	郷土資料受入冊数
5	II-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の育成	II-1-(1)図書館職員研修の充実	5. 図書館職員研修(初任者、レファレンスサービス等)の実施 6. 他団体主催研修への参加促進	研修会の開催数 他団体主催研修への参加数
6	II-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の育成	II-1-(2)図書館職員体制の充実	7. 図書館職員体制の検証	正規職員の司書有資格者数
7	IV-1 読書推進のための学習機会の充実	IV-1-(1)各種講座、おはなし会等の主催事業の充実	10. 地域の特性を生かした読書会、おはなし会、講座、上映会等の主催事業の開催	参加者へのアンケートによる満足度 図書館職員による読書活動実施数 おはなしボランティア養成講座数
8	IV-1 読書推進のための学習機会の充実	IV-1-(2)図書館関係団体(ボランティア団体等)との協働による取り組み強化	11. おはなしボランティア団体によるおはなし会・交流会の開催	おはなしボランティア団体による定例おはなし会の開催数 おはなしボランティア団体による交流会

施策（事務事業）の進行管理チェックシート ①

点検評価の対象年度		令和元年度		別紙 4-(1)									
課 題		I-I障がい者サービスの充実			主管 部課		教育委員会						
施策名		I-I-(1)デジ図書の充実					生涯学習部 中央図書館						
事務事業名		1. デジ図書購入・貸出の推進											
施策 （事務事業）	施策の概要等	障がいのある方等へのサービスを拡充するため、デジ図書（文字・音声・画像を再生できる電子図書）の設置・充実を図る。 期待される効果 ①障がいのある方々に読書の楽しみを広げていくことができる。 ②視覚障がいの方のみならず、学習障がいや知的障がいのある方等にも活用することができる。 ③文化・情報面のバリアフリー化を推進することができる。											
		関連法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二 ー 3 (四) ウ (障害者に対するサービス) 点字資料、大活字本、録音資料、手話や字幕入りの映像資料等の整備・提供、手話・筆談等によるコミュニケーションの確保、図書館利用の際の介助、図書館資料等の代読サービスの実施 ○障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年法律第65号） 公立図書館は障がい者が図書館を利用できるように必要かつ合理的な配慮を行う必要がある。											
実際の成果・効果等		令和元年度は、マルチメディアデジ図書を購入20本寄贈4本を含め24本を登録し、合計蔵書数213本となった。貸出数は30本と前年度より大きく増加した。											
事業に要した経費等		令和元年度購入数20本で、10,000円。											
実績 指標 名・目 標 値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	
	デジ図書蔵書数	204	213	189									
	デジ図書貸出数	45	30	10									
点検 評価 （内部）	評価の観点	評価	総合 評価	内 部 評 価 コ メ ン ト									
	達成度	4	B	蔵書数は目標値を達成した。貸出数は目標値に達しなかったが、前年度実績値を上回った。									
	今後の方向性	4		2019年度に小中学校の特別支援学級担当者研修会の場も活用し、デジ図書の利用方法などについて周知を行った。その効果もあり貸出数が伸びた。2019年12月に、中央図書館にデジ図書視聴コーナーを設置し、利用者の利便性の向上を図った。今後もデジ図書の周知に努めていく。									

施策（事務事業）の進行管理チェックシート ②

点検評価の対象年度	令和元年度		別紙 4-(1)									
課 題	I-2利用者サービスの充実					主管 部課	教育委員会					
施策名	I-2-(1)資料・情報提供サービスの充実						生涯学習部 中央図書館					
事務事業名	2. 資料・情報提供サービスの推進											
施策（事務事業）	公共図書館における利用者サービスを充実させるため、図書館奉仕の基本的なサービスである資料・情報提供サービスを推進する。 関連法令等 ○図書館法 ＜第三条第一項第一号＞ 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルムの収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「図書館資料」という。）を収集し、一般公衆の利用に供すること。 ＜第三条第一項第三号＞ 図書館の職員が図書館資料について十分な知識を持ち、その利用のための相談に応ずるようにすること。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年文部科学省告示第172号）第二 ー 3 （一）貸出サービス等 市町村立図書館は、貸出サービスの充実を図るとともに、予約制度や複写サービス等の運用により利用者の多様な資料要求に的確に応えるよう努めるものとする。 （二）情報サービス 1 市町村立図書館は、インターネット等や商用データベース等の活用にも留意しつつ、利用者の求めに応じ、資料の提供・紹介及び情報の提示等を行うレファレンスサービスの充実・高度化に努めるものとする。 2 市町村立図書館は、図書館の利用案内、テーマ別の資料案内、資料検索システムの供用等のサービスの充実に努めるものとする。 3 市町村立図書館は、利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレフェラルサービスの実施に努めるものとする。											
実際の成果・効果等	来館者数は398,773人、貸出冊数は前年度を上回ったが、目標値には若干届かなかった。リクエスト件数は目標値及び前年度実績を上回ることが出来た。7つの指標のうち、5つの指標で目標値に達することができなかった。											
事業に要した経費等	令和元年度の図書館に関する決算額（正規職員の人件費を除く）は142,262千円。 図書資料費は29,412千円（内訳新聞、雑誌等 6117,579円、一般児童図書等 21,908,905円、郷土図書 1,385,553円） 図書館コンピュータシステム経費：年間15,059,875円											
実績指標名・目標値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値
	貸出冊数	1,100,000	972,684	1,082,860	予約件数	168,000	150,796	152,392	レファレンス（調査相談）	1,000	961	1,012
	来館者数	470,000	398,773	450,954	リクエスト（希望図書購入）件数	800	902	1,046	ホームページアクセス件数	243,000	286,701	237,494
	有効登録者数	33,720	19,099	23,041		（受付冊数）	1,193	1,297				
点検評価（内部）	評価の観点	評価	総合評価									
	達成度	2	内部的評価コメント リクエスト（希望図書購入）件数、ホームページアクセス数は目標値を上回ったが、ほかの5つの指標が目標値に達せず、さらに前年度実績値よりも下回った指標は7つのうち6つであった。新型コロナウイルス感染症の影響で2020年3月は臨時休館の期間もあったことも貸出冊数や来館者数、レファレンス（調査相談）の減の要因の一つと考えられる。 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で市立図書館全館の臨時休館期間もあり、貸出冊数や来館者数等の減少はさらに大きくなることが予想される。3密をふせぐため、閲覧室の座席数を減らしたり、対面での時間が長引きそうなレファレンスはレファレンス受付用紙での申請をしてもらうよう感染拡大防止に努めた。図書館が開館する際には、ツイッターでこまめに発信したり、毎月の特集やミニ展示等も積極的に行うなど、図書館の取り組みのPRに努めた。「市民の友」2020年5月号から図書館の本の紹介コーナーをスタートさせ、市民に広く図書館の情報提供の発信を行っている。今後も様々な機会をとらえて図書館サービスの向上に取り組んでいく。									
	今後の方向性	3										

施策（事務事業）の進行管理チェックシート ③

点検評価の対象年度		令和元年度		別紙 4-(1)									
課 題		I-3青少年に対するサービスの充実				主管 部課		教育委員会					
施策名		I-3-(1)中学生・高校生の読書活動の充実						生涯学習部 中央図書館					
事務事業名		3. 中学生・高校生の読書活動の推進											
施策 （事務事業）	施策の概要等	スマートフォンやインターネットの普及に伴い中学生・高校生のヤングアダルト層の公共図書館離れが深刻になりつつあるなかで、活字に触れる機会を増やすとともに本を読む楽しさを再認識してもらえるよう中学生・高校生の読書活動の充実を図る。 関連法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二 ー 3 (四) ア(児童・青少年に対するサービス) 児童・青少年用図書の整備・提供、児童・青少年の読書活動を促進するための読み聞かせ等の実施、その保護者等を対象とした講座・展示会の実施、学校等の教育施設等との連携											
実際の成果・効果等		令和元年度のヤングアダルト層である13歳~18歳の貸出し実績は、11,694冊で昨年度を下回った。 貸出冊数(972,684冊)に対する年代別の割合は、1.2%と前年度と変わらず低く、成果は上がっていない。											
事業に要した経費等		一般児童図書等23,535,304円(令和元年度決算額)のなかから購入している。											
成 指 値 標 名 ・ 目 標 値 ・ 達	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	
	年齢別(13歳~18歳)の貸出冊数	25,690	11,694	13,039									
点 検 評 価 （内部）	評価の観点	評価	総合 評価	内 部 評 価 コ メ ン ト									
	達成度	2	C	目標値、前年度実績値ともに下回った。令和元年度はYA世代への働きかけとして、中央図書館では夏休みに中学生対象の講座『壁新聞をつくろう』を開催した。また首里図書館は首里中学校と連携し『本のおすすめPOP展示』を実施した。石嶺図書館は石嶺中学校と連携し『読書クイズ・スタンプラリー』、『中学生作のPOP展示』などのイベントを実施した。各館で中学生に足を運んでもらうような取組みを工夫して行ったが、貸出しは、なかなか結びつかなかった。									
	今後の方向性	3		2020年度下半期の取り組みの一つとして、中央図書館ではYA世代を対象とした「本のPOPの募集」を行った。今後もYA世代向けのイベント等の実施やYA図書の購入を増やすよう取り組んでいく。									

施策（事務事業）の進行管理チェックシート ④

点検評価の対象年度		令和元年度		別紙 4-(1)								
課 題		I-4郷土資料の充実				主管 部課		教育委員会				
施策名		I-4-(1)郷土資料の充実						生涯学習部 中央図書館				
事務事業名		4. 郷土資料整備事業										
(事務事業)	施策の概要等	伝統文化の継承・発展に向けて、市民へ郷土に関する情報を提供し地元への関心を高めるため、沖縄関係図書資料や地元出版の図書資料を中心に郷土関係資料を購入する。										
	実際の成果・効果等	「沖縄文化」「琉球史料叢書」「旅する琉球・沖縄史」「王都首里見て歩き」「沖縄から伝えたいこと」他、沖縄関係、地元出版の郷土関係資料を中心に購入することができた。 令和元年度に購入した分も含め、多くの郷土関係資料を利用者に提供し、活用することができた。 郷土資料の貸出冊数は、平成24年度30,591点、平成25年度33,889点、平成26年度35,634点、平成27年度37,768点、平成28年度35,818点、平成29年度33,831点、平成30年度33,203点、令和元年度は 28,530点となっている。										
事業に要した経費等		令和元年度の図書資料費29,412千円のうち郷土図書は 1,385,553円										
績 指 値 標 名・ 目 標 値・ 実	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値
	郷土資料受入 (登録)冊数	1,500	1,022	1,316								
点 検 評 価 (内 部)	評価の観点	評価	総合 評価	内 部 評 価 コ メ ン ト								
	達成度	2	C	平成30年度で一括交付金を活用した郷土図書の購入事業が終了となり予算額が減となったため、前年度実績より受け入れ冊数が294冊減となった。								
	今後の方向性	4		今後もより良い資料収集に努め、購入資料ばかりでなく、行政資料や寄贈資料の受入も積極的に行いながら、郷土資料の充実を図る。								

施策（事務事業）の進行管理チェックシート ⑤

点検評価の対象年度		令和元年度		別紙 4-(1)									
課 題		Ⅱ-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の育成				主管 部課		教育委員会					
施策名		Ⅱ-1-(1) 図書館職員研修の充実						生涯学習部 中央図書館					
事務事業名		5. 図書館職員研修の実施 6. 他団体主催研修への参加促進											
施策 （事務事業）	施策の概要等	司書や一般事務職員に対する研修の企画実施及び他団体主催研修への参加促進等、職員への研修等を充実させ、職員の図書館業務の専門的職務遂行能力を高め、多種多様な市民ニーズに対応できる人材を育成する。 関連法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二 ー 4 (二) 職員の研修 1 市町村立図書館は、司書及び司書補その他の職員の資質・能力の向上を図るため、情報化・国際化の進展等に留意しつつ、これらの職員に対する継続的・計画的な研修の実施等に努めるものとする。 2 市町村教育委員会は、市町村立図書館の館長その他の職員の資質・能力の向上を図るため、各種研修機会の拡充に努めるとともに、文部科学大臣及び都道府県教育委員会等が主催する研修その他必要な研修にこれら職員を参加させるよう努めるものとする。											
		①4月の新任職員研修会は、例年の研修内容に「図書館コンピュータシステムの操作方法」（3時間）を加え、新規配置された職員が図書館業務の基本的な知識を習得することができた。 現任職員研修は、②6月に「図書資料の修理」について、③11月に市消防局救急課職員を講師に「心肺蘇生方法及びAEDの取扱」について実施。④2月に全職員を対象に「LGBT～性の多様性～」について実施した。 他団体主催の研修・講演会へ職員の参加を促進し、図書館職員としての資質・能力を向上させることができた。											
実際の成果・効果等													
事業に要した経費等		④職員研修講師の報償費6,000円（3,000円×2時間）											
績 指 標 名 ・ 目 標 値 ・ 実	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	
	研修会の開催数	3	4	3									
	他団体主催研修への参加数	5	11	11									
点検 評価 （内部）	評価の観点	評価	総合 評価	内 部 評 価 コ メ ン ト									
	達成度	5	A	研修会の開催数、他団体主催研修への参加数ともに目標値を達成した。									
	今後の方向性	4		市民のニーズや社会環境の変化に対応した質の高い図書館サービスを提供するため、計画的な研修を継続して実施する。									

施策（事務事業）の進行管理チェックシート ⑥

点検評価の対象年度		令和元年度		別紙 4-(1)								
課 題		Ⅱ-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の育成		主管 部課		教育委員会						
施策名		Ⅱ-1-(2) 図書館職員体制の充実				生涯学習部 中央図書館						
事務事業名		7. 図書館職員体制の検証										
施策 (事務事業)	施策の概要等		専門職である司書を配置し、管理運営及び職員体制の充実を図ることで、多種多様な市民ニーズに対応できる人材を育成する。 関連法令等 ○図書館法 <第四条> 図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。 2 司書は、図書館の専門的事務に従事する。 3 司書補は、司書の職務を助ける。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二 ー 4 (一)職員の配置等 2 市町村教育委員会は、市町村立図書館が専門的なサービスを実施するために必要な数の司書及び司書補を確保するよう、その積極的な採用及び処遇改善に努めるとともに、これら職員の職務の重要性にかんがみ、その資質・能力の向上を図る観点から、第一の四の②に規定する関係機関等との計画的な人事交流（複数の市町村又は都道府県の機関等との広域的な人事交流を含む。）に努めるものとする。									
実際の成果・効果等		司書による専門的な知識・技術に基づく指導助言を得ることで、職員の資質・能力の向上が図られ利用者サービスへとつながった。										
事業に要した経費等		本市においては、一般事務職と司書職は同じ給料表が適用されるため、司書職の配置のために事務職と比べて特別な経費は発生しない。										
績 指 値 標 名・ 目 標 値・ 実 績	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値
	正規職員の司書有資格者数	7	7	7								
点 検 評 価 (内部)	評価の観点	評価	総合 評価	内 部 評 価 コ メ ン ト								
	達成度	5	A	各館に司書有資格者を配置し目標を達成している。（繁多川図書館は一部業務委託）								
	今後の方向性	4		継続して司書を配置し、図書館職員体制を維持する。 専門的な知識・技術を発揮し、職員の育成、図書館サービスの充実を図る。								

施策（事務事業）の進行管理チェックシート ⑦

点検評価の対象年度		令和元年度		別紙 4-(1)								
課 題		IV-1 読書推進のための学習機会の充実				主管 部課		教育委員会				
施策名		IV-1-(1) 各種講座、おはなし会等の主催事業の充実						生涯学習部 中央図書館				
事務事業名		10. 地域の特性を生かした読書会、おはなし会、講座、上映会等の主催事業の開催										
施策（事務事業）	施策の概要等		新しい知識を得る場の提供、そして図書館へ親しんで読書へのきっかけづくりを目的に各種講座、お話し会、展示会等を行う。 各種講座・・・わくわく子ども会、手作り教室 お話し会・・・各館月2～4回程度開催 展示会・・・慰霊の日関連の展示、テーマ別書籍の展示 講演会等・・・読書週間期間中の講演会等を実施 「おはなしボランティア養成講座」 学校や地域で、絵本、紙芝居等を読み聞かせボランティアとして活動している方を対象に、お話し会や読み聞かせを実践する上で必要な知識や技術を学ぶことをねらいとした「おはなしボランティア養成講座」を実施。 時間：2時間×5回 定員：30人 講師：外部講師3人 関連法令等 ○図書館法 ＜第三条第一項第六号＞ 読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を主催し、及びこれらの開催を奨励すること。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年文部科学省告示第172号）第二 ー 3 （五）多様な学習機会の機会 1 市町村立図書館は、利用者及び住民の自主的・自発的な学習活動を支援するため、講座、相談会、資料展示会等を主催し、又は関係行政機関、学校、他の社会教育施設、民間の関係団体等と共催して多様な学習機会の提供に努めるとともに、学習活動のための施設・設備の供用、資料の提供等を通じ、その活動環境の整備に努めるものとする。 2 市町村立図書館は、利用者及び住民の情報活用能力の向上を支援するため、必要な学習機会の提供に努めるものとする。									
	実際の成果・効果等		講座・教室等の事業は例年どおり実施することができ、参加した多くの方に喜んでいただいた。また参加者へのアンケートから満足度や希望、感想などの把握を行うことができた。									
事業に要した経費等		おはなし会・工作教室等の講師謝礼金 6人 44,000円 おはなしボランティア養成講座謝礼 3人 42,000円										
績 指 値 標 名 ・ 目 標 値 ・ 実	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値
	参加者へのアンケートによる満足度（平均点数）	4.3	4.58	4.69	特別おはなし会等回数(年)	45	89	69	おはなしボランティア養成講座数	5	5	5
					定例おはなし会等回数(月)	2	2	2.14				
					ブックトーク実施回数(年)	10	13	19				
点 検 評 価 （ 内 部 ）	評価の観点	評価	総合評価									
	達成度	5	A									
	今後の方向性	4										
5つの指標すべてにおいて目標値を達成している。特別おはなし会は目標値を大きく上回った。各館で趣向を凝らした取り組みを実施できた。 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で毎年開催している「おはなしがいっぱい」や「おはなしボランティア養成講座」が開催できなかった。定例おはなし会も感染拡大防止のためほぼ実施していない。人が集まる催しが実施できない際には、資料の特集展示や読書ノートの配布等、工夫をしながら、読書推進のための学習機会の提供に努める。												

施策（事務事業）の進行管理チェックシート ⑧

点検評価の対象年度	令和元年度		別紙 4-(1)									
課 題	IV-1読書推進のための学習機会の充実				主管 部課	教育委員会						
施策名	IV-1-(2)図書館関係団体との協働による取り組みの強化					生涯学習部 中央図書館						
事務事業名	II.おはなしボランティア団体によるおはなし会・交流会の開催											
施策（事務事業）	施策の概要等	図書館が開催する「おはなし会」に、地域で活動しているおはなしボランティア団体・個人が参加することにより、ボランティア団体等に対し発表の場を提供する。 年に一度、図書館で活動するおはなしボランティア団体・個人が参加する「合同おはなし会」を開催し、おはなしボランティア間及び図書館職員との連携強化を図る。 おはなしボランティアとの協働による取り組みを強化するため、図書館で活動する全てのおはなしボランティア団体・個人と図書館職員が一堂に会する「交流会」を開催する。										
		関連法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二 ー 3 (六)ボランティア活動等の促進 1 市町村立図書館は、図書館におけるボランティア活動が、住民等が学習の成果を活用する場であるとともに、図書館サービスの充実にも資するものであることにかんがみ、読み聞かせ、代読サービス等の多様なボランティア活動等の機会や場所を提供するよう努めるものとする。										
実際の成果・効果等		おはなしボランティア団体・個人による定例おはなし会を各館月1～2回開催している。また、合同おはなし会「第9回おはなしがいっぱい」を12月7日に開催、会場いっぱいの来場があった。おはなしボランティア団体・個人への活動の場の提供になるとともに、子ども達が団体（話し手）の特色ある「おはなし」に親しむことで、読書推進活動への効果が見込める。 おはなしボランティア交流会を6月9日（参加者20人）、9月8日（参加者18人）、1月12日（参加者13人）の3回開催し、意見交換などを通じて、ボランティア間や図書館職員との間で更なる連携強化が図られた。										
事業に要した経費等		ボランティア保険料23,800円（68人）										
指標名・目標値・実績	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値
	おはなしボランティア団体による定例おはなし会の開催数（月）	1	1.29	1	おはなしボランティアによる交流会の開催数（年）	3	3	4				
点検評価（内部）	評価の観点	評価	総合評価	内 部 評 価 コ メ ン ト								
	達成度	5	A	定例おはなし会開催数、おはなしボランティアによる交流会の開催数とも目標を達成。								
	今後の方向性	4		交流会よりボランティアと職員の連携を強化し、定例・合同おはなし会の充実を図る。 ボランティア活動の機会や場所を提供し、ボランティア団体の育成や会員の新規加入促進を支援し、協働による取り組みを支援する。								